

大阪ダブル選維新圧勝で府内各党

平静・警戒とさまざま

22日に投開票された大阪府知事と大阪市長のダブル選で、いずれも橋下徹大阪市長が率いる地域政党「大阪維新の会」公認候補が圧勝した。大阪都構想否決や党分裂騒動を乗り越え、維新の勢いが衰えていないことを示す結果。府内の政党関係者は、警戒しつつも影響をはかりかねている。

「京都維新の会」の田坂幾大代表は「党の分裂騒動を有権者がどう判断するか心配した。だが、一定の理解を示してもらえ、元氣な関西を作ってほしいという思いを感じた。京都に勢いを波及させたい」と喜ぶ。

一方、自民党府連の寺田一博幹事長は「勝因は橋下さん個人への期待感に尽きる。京都にそんな人はおらず大阪と違う」と、府内への影響は限定的と見る。公明党府本部の竹内護代表も「今の大阪を何とかせなあかんとの意思の表れ。大阪特有の現象だ」と話した。

「これで京都維新が勢いづくかは別問題。京都市長選への影響はほとんどないだろう」と述べたのは、共産党府委員会の渡辺和俊委員長。民主党府連の隠塚功幹事長は「京都維新は大きな勢力でない。橋下氏のいる大阪とは政治への影響力が全く違い、同じ構図は描けない」と平静を装った。

地域政党「京都党」の村山祥栄代表は「同じ地域主義を掲げる政党として励みになるし勇気をもらった」と話す。ダブル選の結果を「有権者が『理念なき野合はええ加減にして』とノーを突きつけた」とみる。

警戒感も広がる。寺田氏は「誰かが突然現れ、『何かやってくれそうだ』という期待で政治が一変することは、いつ京都で起きてもおかしくない」。隠塚氏も「参院選で京都で候補を出すため、維新が市長選に候補を立てることはありえる。我々の推す候補の票を割る恐れはある」。

来夏の参院選京都選挙区（改選数2）には、すでに自民、民主が現職、共産が新顔の擁立を決めている。田坂氏は「候補者調整は一切しない。（野党が）共倒れするかどうかは有権者が選ぶこと」と強気の構えだ。一方、寺田氏は「維新が目指すのは国政か地域政党か今はあいまい。大阪のために京都で国会議員を作るといふ理屈は通らない」と牽制した。